

小児看護学概論

必修

開講年次：2年次後期

科目区分：講義

単位：1単位

講義時間：15時間

■**科目のねらい**：前半の講義では、乳児期から思春期までの子どもの成長・発達、および家族の発達に関する知識と基礎理論を学修します。後半の講義では、子どもの健康生活、育児支援、生活指導、ヘルспロモーションやセイフティプロモーションの概要を学ぶとともに、今日の課題を考察します。以上の学修を通して、小児看護の役割、責務および実践活動の意義について理解を深めます。

■**到達目標**：①子どもの人権、権利擁護、親権、子どもと親の意思決定のあり方について説明できる。
②子どもの成長・発達、健康、家族と育児機能、生活環境について説明できる。
③子どもの発達評価と環境アセスメントの方法を説明できる。

■**担当教員**：

松浦 和代

■**授業計画・内容**：

- 第1回 小児看護の理念・役割・責務と子どもの権利
- 第2回 小児の成長・発達（1）成長・発達の原則と影響因子
- 第3回 小児の成長・発達（2）形態的成長／機能的発達／精神運動機能の発達
- 第4回 小児の成長・発達（3）心理社会的発達／発達評価と環境アセスメント
- 第5回 小児の発達段階に応じた育児支援—乳児期・幼児期
- 第6回 小児の発達段階に応じた生活指導とライフスキルの育成—学童期・思春期
- 第7回 母子保健の動向と小児保健統計
- 第8回 まとめ：小児の発達と絵本

■**教科書**：『新体系看護学全書小児看護学①小児看護学概論・小児保健』（メヂカルフレンド社）、『新体系看護学全書小児看護学②健康障害をもつ小児の看護』（メヂカルフレンド社）

■**参考文献**：『日本子ども資料年鑑2016』（KTC中央出版）、『成長障害のマネジメント』（医薬ジャーナル社）、『新 子どもの事故防止マニュアル（改訂第3版）』（診断と治療社）、『子ども虐待対応の手引き（改訂版）』（有斐閣）

■**成績評価基準と方法**：

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験	◎	◎	◎	講義内容の理解	80
授業内レポート	○	○	○	ポイント理解	10
授業態度	○	○	○	積極的な姿勢	10
出席				2/3以上の出席	定期試験 受験資格
e-Learning				自学自習状況の参照	0

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：1年次後期に履修した「人間発達援助論」の学習内容を深めていきます。視聴覚教材を有効に活用し、対象理解が進むよう講義を工夫したいと考えています。